

## 犬上川河畔林のタブノキ林の伐採について

### 1. 犬上川広域河川改修事業の概要

犬上川の改修計画では、現存する特定植物群落に指定されているタブノキ林を改修後においてもできるだけ残すために、右岸側のタブノキ林の保全に加えて、左岸側に河道を広げて河川内にタブノキ林を島として残すこととし、滋賀県立大学等の研究者や地元住民の協力を得て、治水と環境の両立を目指した計画を平成6年から8年にかけて策定している。(図-1)

### 2. 今回の工事内容

今回の工事は、右岸側の旧堤防を撤去するもので、準備工として伐採を行ったものである。この伐採にあたり、保全すべきタブノキ林の一部を10月30日から11月6日にかけて伐採したものである。(図-2) (写真-1)

### 3. タブノキ林の伐採事故が生じた原因

- ・ 保全すべき区域と伐採する区域との図面を現場で照合する作業ができていなかったこと
- ・ 工事に先立ち、今まで行っていた県立大学との事前調整ができていなかったこと
- ・ タブノキ林の保全計画に関する取組みの承継が不十分であったこと

### 4. 今後の対応と再発防止策

#### (1) 個別の河川工事に関する対策

- ・ 工事発注の前に、図面と現場を照合し、残すべきところ、伐採するところを確実に確認する。
- ・ 工事に入る前に、地元の関係者にあらかじめ計画を説明し了解を得る。
- ・ 特に貴重な種については、現場に表示などを行い、その貴重性の意味と意義を共有できるようにする。

#### (2) 犬上川のタブノキ林の保全・復元対策

##### ・ 現場の対応

11月12日(月)に野間准教授に同行をお願いし、伐採した区域の調査を実施した。調査により確認したタブノキの幼樹については、今後、復元区域を選定したうえで移植を行う予定である。

##### ・ 検討会の設置

タブノキ林の保全・復元対策を検討する「犬上川タブノキ林保全・復元対策検討会(仮称)」を設置する。

#### (3) 職員の意識改革

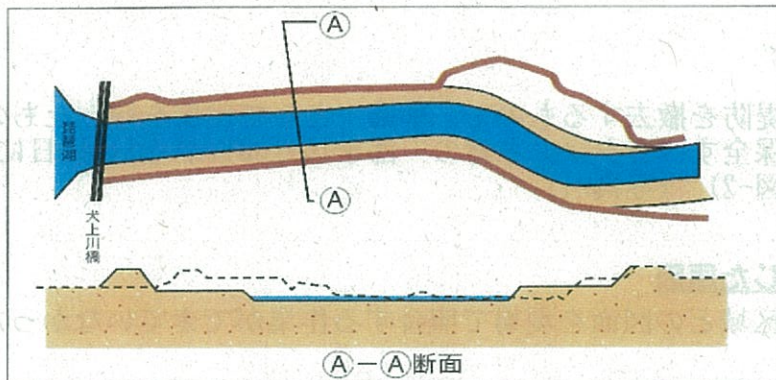
- ・ 11月29日(木)に今回の事例から得られた教訓を活かすための「部内緊急報告会」を実施し、環境に関する制度・指針等の再確認と周知徹底を図る。
- ・ 1月14日(月)に開催される「淡海の川づくりフォーラム」において部外報告を行う。

## 犬上川改修計画の内容

犬上川の改修は、昭和54年に全体計画を策定しましたが、この時の計画では、安全な川づくりに主眼を置いたために、生態系や景観といった環境への配慮は十分ではありませんでした。

そこで平成6年度に、改修が最も急がれている河口から1.8kmの区間において、自然環境に配慮した計画の策定を行いました。平成8年度においても、さらなる環境の保全をめざし、一部の見直しを行いました。

### ■昭和54年 全体計画

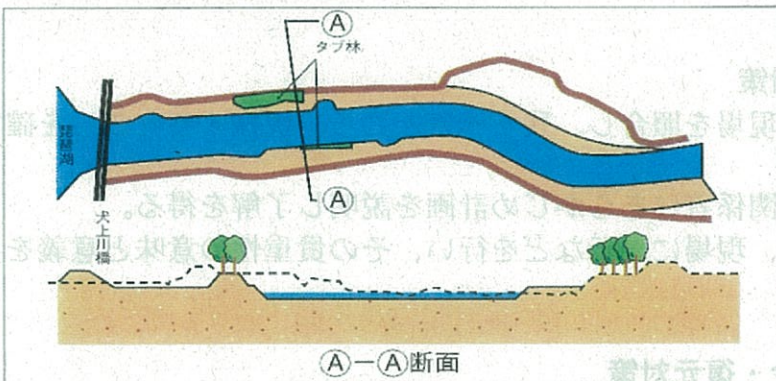


現在の犬上川は、洪水を流す能力が不足しているため、河床掘削及び一部の引堤を計画しました。このとき河道内の樹木は全て伐採する計画となりました。

■計画区間：河口から6.3km

注) 左の図は河口から1.8km区間の模式図です。

### ■平成6年 犬上川改修計画



生態系調査の結果、特定植物群落に指定されているタブ林の一部を残すべく、河口から1.8km区間の改修計画を策定しました。

この計画ではタブ林を高水敷に残置させ、その分左岸側をさらに引堤することにしました。

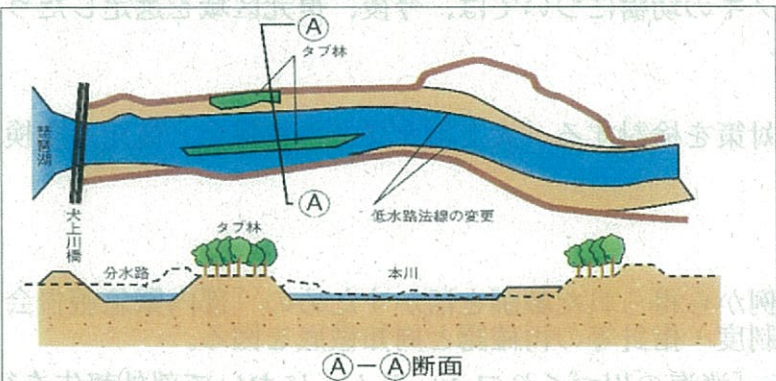
■計画区間：河口から1.8km

■タブ林の残置率：21%

■その他生物への配慮

- ・ハリヨの生息場所の保全
- ・人工淵の形成
- ・魚の避難場所設置など

### ■平成8年 犬上川改修計画の一部見直し



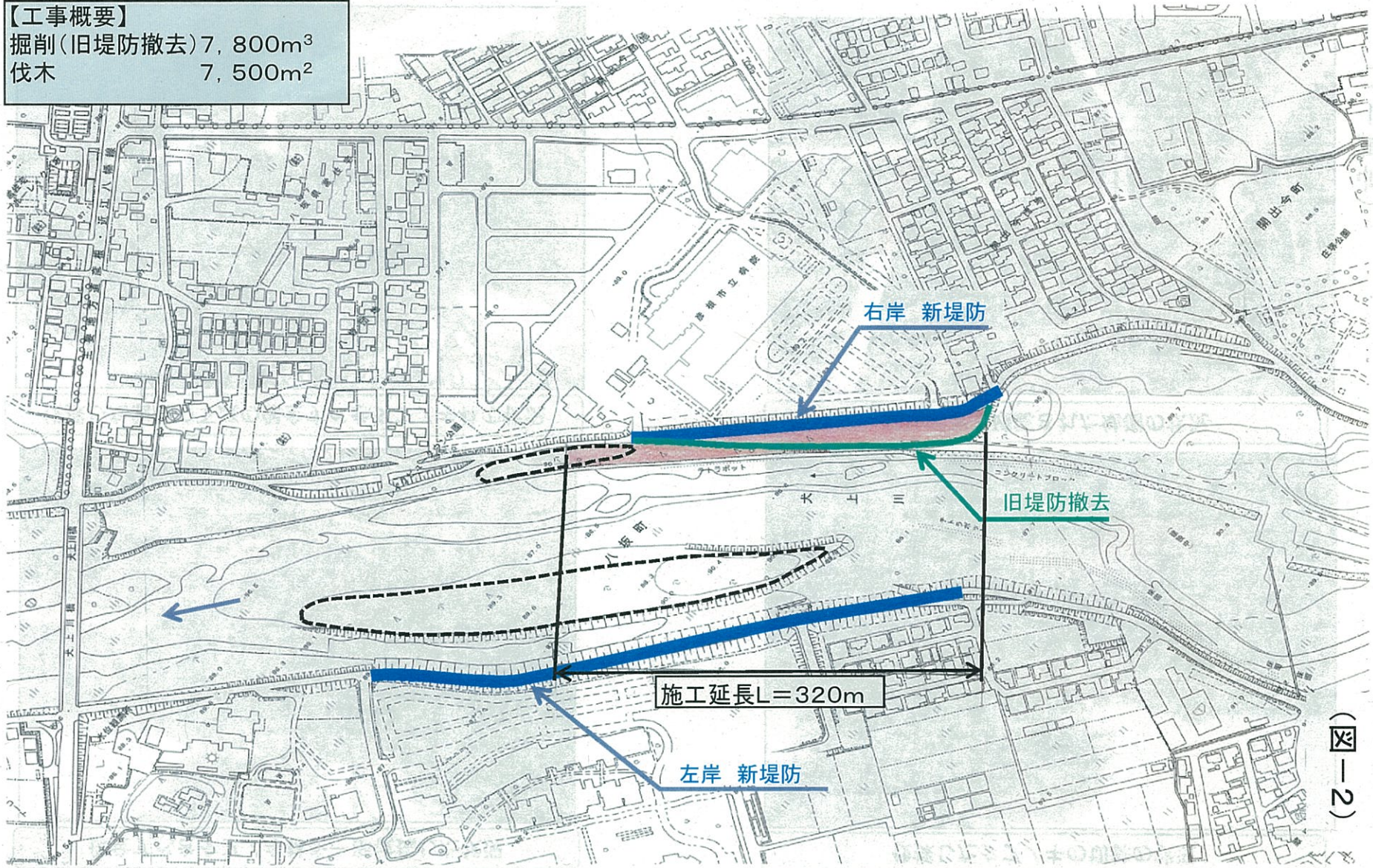
地球環境問題に対する関心の高まりや、自然環境の保全に対するニーズの高まりという背景を受け、現計画の河道内でさらなるタブ林の保全の検討を行いました。

この計画では左岸側の高水敷を切り下げて分水路とすることにしました。

このような河道形状とすることにあたっては水理的な問題が考えられるため、それらを解決するために、水理模型実験を実施しました。

■タブ林の残置率：54%

【工事概要】  
掘削(旧堤防撤去) 7,800m<sup>3</sup>  
伐木 7,500m<sup>2</sup>

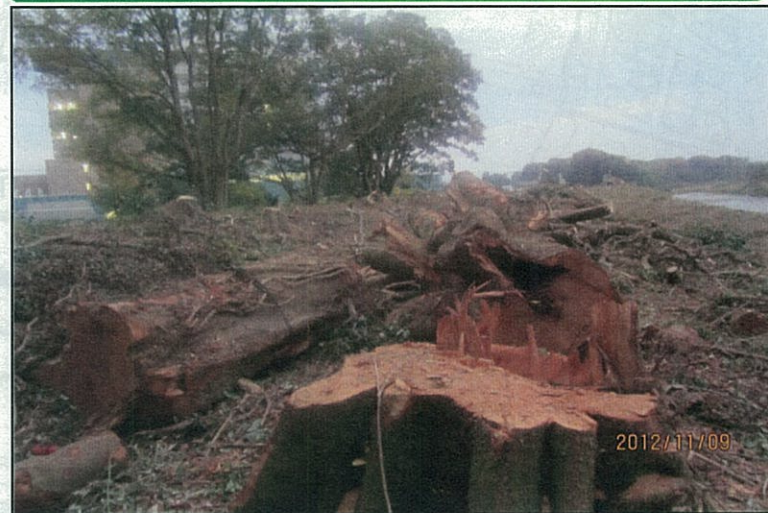


(図-2)

保全すべきタブノキ林を一部伐採した状況



伐採したタブノキの切株の状況



伐採した個所の下流の保全すべきタブノキ林の状況



現地調査で確認された幼樹の状況



(写真-1)